

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391600240		
法人名	株式会社 アルバ		
事業所名	グループホーム サライ 牧野が池公園 1F		
所在地	愛知県名古屋市長白区梅が丘5丁目108番地		
自己評価作成日	令和2年1月19日	評価結果市町村受理日	令和2年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	令和2年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成27年5月～ サライ牧野が池公園へリニューアルし5年目に入るとなりました。入居者様ご自身で出来る家事は無理なく体調・状態に合わせて行って頂いております。年間行事のイベント・外出の企画を考え、外出は少人数で順番に地域に出かけております。月1回の音楽ボランティアや地域の子供会のイベントには施設に訪問、地域の保育園の園児は暖かい季節に散歩の途中で遊びに来ていております。
庭には畑があり、季節ごと色々な野菜を育てております。沢山できる野菜に関しては、入居者の皆さんで収穫して頂いております。
事は平成28年1月より、屋のみが手作りとなっております。朝・夕は湯煎のお食事となります。入浴は、週2回ですが徐々に歩行が出来なくなった方でも安心して入れるリフト浴を1階に備え付けております。
体調管理(医療と連携)に気を付けて理念である「笑顔に満ちあふれたふたつめの家族」を心に置き、本人のできることできないこと見極めて笑顔で暮らして行けるよう支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

サライ牧野が池公園は今年5月で6年目を迎える。静かな住宅街にある2階建て2ユニットの事業所で、近くには竹林美しい牧野が池緑地があり、季節を感じ、穏やかに過ごせる環境がある。民生委員やいきいき支援センターの協力を得ながら地域の行事や催しへ参加し、子供会や近隣保育園との交流も定着している。今年度は新しく近隣住民との交流も始まっている。また、市のおでかけスポット等への外出や外食へ積極的に出かけている。運営推進会議の参加メンバー増員に向け、今年度は、会場を変更し案内状配布を行う等取り組み、改善に繋げている。地域に密着した支援を通して、「笑顔に満ちあふれたふたつ目の家族」の理念の下、笑顔を引き出す関わりを大切にして入居者の暮らしを支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念についてミーティング内で話し合いをして理解に努めている。入居者が自分の居場所として安心して生活ができるように寄り添っている。	理念は、玄関、各フロアの事務所に掲示している。入居者の笑顔を引き出すために、日常的に交わす会話を大切にし、時には安心して話ができる環境作り、個別で外出することもある。ミーティング等で、理念の理解を職員間で共有したり、折に触れ理念に基づいた関わり方を話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	子ども会の行事で年2回の子供獅子舞の訪問、ハロウインの仮装行列の訪問。保育園児の訪問、いきいきサロンの参加、月1回の音楽ボランティアと不定期で親子ボランティアの来訪。町内会の夏祭り、お茶会、清掃で地域に参加している。	町内会に加入し、事業所案内や防災協力要請を掲載した「ホーム概要」を町内会へ送付している。地域の盆踊りへ参加したり、獅子舞やハロウインでは子供会からの訪問を受ける他、お茶会やサロン、健康体操等、地域の催しに参加し交流している。民生委員の協力を得て芋掘りへも行っている。今年度も保育所の定期来訪があり、また、近隣の親子の訪問を受ける等、新しい関係が定着しつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のイベントや近所への散歩をすることによって顔見知りになり、認知症であることを理解してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議を行っている。少人数ではあるが、ご家族・いきいき支援センター・民生委員・医療の参加がある。参加をして頂くのを目的に外部でお茶を飲みながら会議を行った。	民生委員、いきいき支援センター職員、協力医、歯科医師、家族の参加を得て年6回実施している。地域情報や区の高齢者支援についての情報を収集し、運営に反映している。今年度は、より多様な参加者を得る目的で会議の開催場所を変更し、参加者の増加に繋げた取り組みを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	名古屋市社協の研修に参加。いきいき支援センターからボランティアの紹介。運営推進会議の議事録は開催月に介護保険課へfaxしている。区役所の保護係とは生活保護者の事で連絡を取っている。	いきいき支援センター職員との連携を密に行い、地域行事やボランティアの情報を活用している。また、認知症交流会や作品展への出展等に参加している。市の高齢・障害福祉職員研修やキャリアアップ研修へ職員が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、1階では身体拘束を行っている方はいません。施錠に関して、1階は日中リビングの扉の施錠はしていない(緊急時のみ)。夜間は遅番退勤後、防犯の為玄関の施錠はしている。	年に3回「虐待、身体拘束について」の研修を実施している。運営推進会議に身体拘束対策委員会を設置し、毎回報告している。毎年職員へ、虐待防止に向け、身体拘束含むアンケートを実施している。集計結果はミーティング時に共有している。管理者は、この取り組みを法人会議で他事業所に周知している。入職者へはマニュアルを用いて説明している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	尊厳・虐待についてのアンケートを年1回実施している。虐待についての研修を実地し運営推進会議にて報告し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、学ぶ機会は持っていない。成年後見人制度を活用している方がいるので保佐人とは定期的に連絡を取り合っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約時、家族に説明し要望をきいている。その後の不安・質問にもその都度お応えしている。改定時には説明書類を送り同意書を取っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見要望は議事録を送って報告をしている。来訪時、電話等でのご意見・質問にはなるべく早急に返答している。施設側からは毎月ホーム便り・運営推進会議の議事録をご家族に送っている。	毎月、個別に写真を載せ、近況を書いた物を郵送し状況を報告している。家族の面会時に意見や要望等を聞いている。来訪の少ない方には電話で聞いている。行事の際にお誘いし参加の呼びかけを行っている。運営推進会議の開催場所の工夫等をして、家族の参加が得られるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の年1回面談を行っている。その際自己評価してもらい目標と達成の記入してもらっている。自己評価を元に面談し会社や施設への要望、意見を聞きとり反映している。	月1回のフロア会議の開催時に意見、提案の機会がある。夜勤帯の配置について意見が上がったことがあり、その際には幹部職員から説明し対応している。年に1回、事前に提出された自己評価票を基に個人面談を行い目標の達成度の確認と、法人に対して要望を聴取し、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談を通して自己評価票(年1回)記入してもらい自己評価に対して評価を行っている。本人のやる気・やりがいに繋がっていかれると思う。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は会議中に行っている。外部研修は名古屋市高齢・障害研修、キャリアアップ研修に参加している。新人職員入職時には新人研修を行っている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループの施設の職員が見学に来たり、天白の認知症カフェ交流会に参加。他施設の意見を聞く機会があった。入居問い合わせでは同グループの施設と連携を取ることがある。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時や来訪時に家族から要望や本人の生活歴・趣味(入居日までに記入して頂いている)を聞き職員間で周知する。入居者は、入居時不安が大きいので孤立しないよう寄り添い安心して頂けるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に要望を聞きケアプランに反映している。入居までの問題であったことを聞き入れ入居後、家族と入居者が安心して生活できるように話を聴きお答えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居当初は入居者も不安がある為、職員に日常の状態を把握してもらい。問題があれば家族へ連絡し今後の支援方法の説明をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に今出来ることを考え、出来る限りの事はお手伝いしてもらい、できない事は職員と一緒にやるように心掛けている。生活の中で言動・行動から困っていることを導き出している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態の変化があれば家族に連絡し今後の事を聞きながら支援をしている。面会・外出も特に時間制限はないので突然の要望にも対応家族のみの時間を過ごしていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者に掛ってくる電話は出ている。こちらから掛けることはない。面会は19時までは自由来訪できる。毎年、年賀状を送り、送っていない人から届けば返信している。もともと行っていたスーパーや神社に初詣に出かけることもある。	馴染みの場所や人については、入居時に家族から情報を得ている。外出行事の際には、以前よくお参りした神社や馴染みのスーパーを行き先にしてお出掛けしている。家族と墓参りや自宅へ草取りに帰宅する方もいる。知人や家族等へ電話や年賀状等の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は難聴の方との間に入り話のやり取りの支援をしたり、入居者同士のトラブルにならないよう間に入り、時には席替えし支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居や契約終了後は特にこちらからのフォローは行っていない。退居後他からの連絡・郵便物があれば連絡している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケース記録に入居者の発言や行動を記録し出来る限りの希望・意向に努めている。無理に強要したり強制はしていない。困難な方には行動・表情から読み取るようにしている。	日頃より、入居者の発言や行動等をケース記録に残し、職員は毎日閲覧し共有している。その記録を活用してケース会議時に、思いや意向を検討し、把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご家族に生活歴・馴染みの暮らし方を記入してもらって聞き取りをしている。入居者には日常生活の会話の中で聞きとり、ミーティング時に伝え話し合っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する状態を観察しケース記録に残している。個々の能力・状態に合わせて介助や日常生活で出来ることをやって頂いている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1回の計画見直しと1か月1回のユニット会議を開催しケアの内容を話し合っている。家族には会えた時や電話・ホーム便りにて現状を伝えケアプランに反映している。	目標の進捗状況を3ヶ月に一度モニタリングし、計画作成者、管理者、担当職員でサービス担当者会議を実施し、計画の見直しをしている。家族からは面会時や電話で希望や意見を聞いている。短期目標は業務日誌に記載され、日々の実践を職員が一目で分かるようにしている。生活歴等の情報を新たに得た際には、計画に盛り込みケアに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のバイタル測定・ケアの記録・業務日誌を記入し、必ず前日の記録・様子を見返している。申し送りノート(全体・ユニットごと)会議議事録の確認をし共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や認知症の変化に合わせてケアをしている。病状に合わせて医療に確認しご家族にも報告をどうしていくかの確認をしている。その時々個々の状態に合わせてケアに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買物に出かけたり、地域の行事に参加している。民生委員さんより芋堀のお誘いで地域の保育園児と一緒に参加。地域の医療(皮膚科・整形外科)には、状態に合わせて外来に受診している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回かかりつけ医の往診がある。24時間の連携体制があり、緊急時には指示を仰ぐときと状況により先生が往診に来てくれる。家族希望で他医療機関に家族同行で受診している方もいる。歯科医の往診もあり。口腔ケアを週1で受けている。	協力医が2か所あり、それぞれ週2回の往診があり緊急時等24時間体制で連絡可能である。訪問看護と契約し、日常の健康管理を行っている。もとのかかりつけ医や他科への受診は家族協力のもと継続している。家族の対応が難しい場合は職員が受診支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1訪問看護により、健康チェックを行っている。心身状態に合わせ訪問看護に入っただけの体制である。薬・軟膏類の把握と排便コントロールの相談等行いかかりつけ医・看護と連携をとっている。訪問看護より送りノートや記録用紙で情報を共有している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、出来る限りお見舞いに行き状態の把握をしている。家族にも連絡を取り今後の事を相談している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医・看護・家族と相談しながら終末期に対応している。重度化や終末期に備えて入居時に同意を取っている。終末期には記録の書き方や内部研修を行って終末期に備えている。	入居の際に、重度化した場合の方針について説明し、同意をもらっている。入居者の状態の変化に応じて、家族に意向の確認を行っている。また、医師より終末期の段階で説明があり、家族、看護師、職員で支援方法について共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルはあり、応急手当・初期対応の訓練は外部に行っている。平成30年9月にAEDを設置しました。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。1回目は夜間想定避難訓練、2回目は火災による避難訓練を実地しております。	夜間想定を含め、年2回の避難訓練を実施している。また、心肺蘇生の外部研修に職員が順番に参加し、緊急時に対応できるよう努めている。水、食料等3日分の備えがある。	非常災害時の近隣の協力体制の構築について検討することを期待します。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室入室時には必ず本人に声をかけて入室している。一人ひとりに合わせた声かけや会話を行っている。職員の声掛けに関して気になるときはミーティングで職員に伝えている。	年1回接遇、マナー研修の他に、職員に接遇、虐待、拘束等の内容のアンケートを実施し、セルフチェックを行っている。居室に入室する際は本人に同意を得てから入室している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方には何かする前には希望を聞いてから支援を行っている。自己決定できない方には普段の行動や表情で読み取るよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	トイレは個々のペースで声掛けしている。本人が寝たいときは横になってもらいレクの参加も自由である。本人の希望に沿った支援に心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は決められる方は自分で決めている。整容・洗顔・髭剃りは出来る方には自己でやっている。2か月に1回訪問理美容ありカットするかどうか本人か家族の希望を聞いている			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は業者を利用し、昼の献立のみ職員が手作り、特別メニューがありイベント時に利用している。他イベント時には、年1回屋食パイキング、握りずしを楽しんでもらっている。時々屋食やおやつに外食へ行っている。食後の下膳は出来る方のみしている。	食事の際、盛り付けや下膳、食器洗い、テーブル拭き等、できる方は参加している。普段参加できない方でもおやつレク、たこ焼き、ケーキ作り等で手作りを楽しんでいる。また、お弁当を持参し、公園で食事をする等、気分転換を図っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分は水分・食事摂取表をつけている。食事は1日のトータルを3段階で評価し摂取量を確認している。水分の少ない方には飲んでもらえるように声かけをしたり違う飲み物で対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の歯科往診の受診あり。 毎食後口腔ケア実施。歯科衛生士より個々に合わせた指導がありそれに沿って声掛け・ケアを行っている。夜間に歯ブラシの消毒を毎日行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で個々の排泄の間隔を24時間チェックしている。チェック表を元に声掛け・誘導を行い把握している。起床時には牛乳や飲み物を毎日飲んでいる	個々の排泄リズムに合わせて誘導し、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。また、便秘対策として、起床時に、牛乳や飲み物を提供するほか、オリゴ糖を使用し、自然な排泄に繋げる支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表でマイナス日数を記録し看護師と相談しながら排便コントロールを行っている。自立の方にはトイレ後排尿・排便の有無を聞いている。難しい方には、痕や臭いで判断している。起床時、飲み物やヨーグルトを提供している			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本週2回午前中に行っている。午前中から声掛けし拒否があるときは夕方までに入浴して頂く。その日が無理なら翌日にまわしている。バスクリンを入れて楽しんでもらっている。歩行のできない方はリフト浴を使用している。	ゆず湯、しょうぶ湯等の季節湯の提供がある。また、週2回の午前中を基本としているが、希望があれば、入浴回数や時間帯には柔軟に対応する。入浴時間は職員と1対1で対応するため、ゆっくり入居者の話を聴くようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、居室で寝たい方には寝ていただき本人の休みたい時に休んでいただいている。自分の席で寝てしまうときは声掛けし居室かこのままフロアで過ごすか伺うようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬チェック表で確認しながら飲み忘れの無いように気を付けている。内服薬については、職員には月2回の往診記録・各階の申し送りノートで変更について周知してもらっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたむ・タンスへしまうは日常行っています。出来る方は居室への掃除機がけ、洗濯機を回す、洗濯物干しを役割で行っている。声掛けで塗り絵や写経をしたり、週1回合同のカラオケに参加している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レク担当は各ユニット1名ずつ配置計画を立てている。計画は月1回程度、外出・外食の支援を行っている。全員で外出することはできませんが、数人のグループに分かれて外出しています。普段は近所へ散歩、庭の野菜や花を取りに行ったり、買い物に同行しています。	気候の良い日は、散歩に出かけている。毎月1回は外食、外出レクがあり、初詣や花見等の季節の外出の他、日泰寺、東山タワー、水族館、レトロ電車館、興正寺等、車で外出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金としてお小遣いを預かっていて必要な物をホームで職員が購入している。時々買物へ同行している。買い物レクでは好きなものを選んでたり好きな物を食べたり本人に自由に選んでもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を出している。年賀状が届く方には返信している。ご家族や知人からかかってくる電話で相手から要望があれば電話に出て頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の壁には外出・イベントの写真を貼っており、玄関や共用空間は季節ごとにディスプレイをしている。季節毎に入居者と一緒に壁に飾る作品を制作している。冬は加湿器を置き、毎日の掃除で清潔に過ごしていただくように心掛けている。年間通して室温の変化がないようにしている。	フロアの各所に雛人形が飾ってあり季節感が感じられる。キッチンが独立した場所にあるため、リビングは広々とした空間が確保されている。加湿器、温度計を設置し快適に過ごせるよう配慮している。風呂場・トイレの表示が大きく分かり易く掲示してある他、写真付きでスタッフ紹介の掲示があり、入居者や来訪者に分かり易い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で横になる方は独りになる時間が持てている。フロアでは、個々の性格や相性を考慮して席を決めている。ソファや日の当たる所で思い思い過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は安全に過ごせるように心がけ、身体の状態によってこちらで配置替えをすることもある。入居時に持参された物、家族・職員からの贈り物を飾るようにしている。職員と一緒に整理整頓することもある。	ベッド・照明・エアコン・カーテンは備付である。その他は入居前から使用していた家具や、使いやすいのを設置し、仏壇や、家族の写真や趣味の作品を飾り、個々に居心地の良い空間づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分には歩行がスムーズに出来るように物を置かないようにしている。トイレ・浴室の扉には「男性用」「男女兼用」「来客用」「お風呂場」とわかりやすくしている。階段前には張り紙で危険を知らせ安全に工夫している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391600240		
法人名	株式会社 アルバ		
事業所名	グループホーム サライ 牧野が池公園 2F		
所在地	名古屋市天白区梅が丘5丁目108番地		
自己評価作成日	令和2年1月19日	評価結果市町村受理日	令和2年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成27年5月～ サライ牧野が池公園ヘリニューアルし5年目に入る年となりました。入居者様ご自身で出来る家事は無理なく体調・状態に合わせて行って頂いております。年間行事のイベント・外出の企画を考え、外出は少人数で順番に地域に出かけております。月1回の音楽ボランティアや地域の子供会のイベントには施設に訪問、地域の保育園の園児は暖かい季節に散歩の途中で遊びに来て頂いております。

庭には畑があり、季節ごと色々な野菜を育てております。沢山できる野菜に関しては、入居者の皆さんで収穫して頂いております。お食事は平成28年1月より、屋のみが手作りとなっております。朝・夕は湯煎のお食事となります。入浴は、週2回ですが徐々に歩行が出来なくなった方でも安心して入れるリフト浴を1階に備え付けております。

体調管理(医療と連携)に気を付けて理念である「笑顔に満ちあふれたふたつめの家族」を心に置き、本人のできることでできないこと見極めて笑顔で暮らして行けるよう支援していきます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5
訪問調査日	令和2年2月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念についてミーティング内で話し合いをして理解に努めている。入居者が自分の居場所として安心して生活ができるように寄り添っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	子ども会の行事で年2回の子供獅子舞の訪問、ハロウィンの仮装行列の訪問。保育園児の訪問、いきいきサロンの参加、月1回の音楽ボランティアと不定期で親子ボランティアの来訪。町内会の夏祭り、お茶会、清掃で地域に参加をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のイベントや近所への散歩をすることによって顔見知りになり。認知症であることを理解してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回の運営推進会議を行っている。少人数ではあるが、ご家族・いきいき支援センター・民生委員・医療の参加がある。参加をして頂くのを目的に外部でお茶を飲みながら会議を行った。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	名古屋市社協の研修に参加。いきいき支援センターからボランティアの紹介。運営推進会議の議事録は開催月に介護保険課へfaxしている。区役所の保護係とは生活保護者の事で連絡を取っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、2階では身体拘束を行っている方はいません。 施錠に関して、2階は日中リビングの扉の施錠はしていない(緊急時のみ)。夜勤者出勤時よりフロアと踊り場の扉のロックをしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	尊厳・虐待についてのアンケートを年1回実施している。虐待についての研修を実地し運営推進会議にて報告し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、学ぶ機会は持っていない。成年後見人制度を活用している方がいるので保佐人とは定期的に連絡を取り合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約時、家族に説明し要望をきいている。その後の不安・質問にもその都度お応えしている。改定時には説明書類を送り同意書を取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見要望は議事録を送って報告をしている。来訪時、電話等のご意見・質問にはなるべく早急に返答している。施設側からは毎月ホーム便り・運営推進会議の議事録をご家族に送っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の年1回面談を行っている。その際自己評価をしてもらい目標と達成の記入してもらっている。自己評価を元に面談し会社や施設への要望、意見を聞きとり反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談を通して自己評価票(年1回)記入をしてもらい自己評価に対して評価を行っている。本人のやる気・やりがいに繋がっていければと思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は会議中に行っている。外部研修は名古屋市高齢・障害研修、キャリアアップ研修に参加している。新人職員入職時には新人研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループの施設の職員が見学に来たり、天白の認知症カフェ交流会に参加。他施設の意見を聞く機会があった。入居問い合わせでは同グループの施設と連携を取ることがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時や来訪時に家族から要望や本人の生活歴・趣味(入居日までに記入して頂いている)を聞き職員間で周知する。入居者は、入居時不安が大きいので孤立しないよう寄り添い安心して頂けるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に要望を聞きケアプランに反映している。入居までの問題であったことを聞き入れ入居後、家族と入居者が安心して生活できるように話を聴きお答えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居当初は入居者も不安がある為、職員に日常の状態を把握してもらい。問題があれば家族へ連絡し今後の支援方法の説明をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に今出来ることを考え、出来る限りの事はお手伝いしてもらい、できない事は職員と一緒にやるように心掛けている。生活の中で言動・行動から困っていることを導き出している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態の変化があれば家族に連絡し今後の事を聞きながら支援をしている。面会・外出も特に時間制限はないので突然の要望にも対応家族のみの時間を過ごしていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者に掛ってくる電話は出ている。こちらから掛けることはない。面会は19時まで自由来訪できる。毎年、年賀状を送り、送っていない人から届けば返信している。もともと行っていたスーパーや神社に初詣に出かけることもある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は難聴の方との間に入り話のやり取りの支援をしたり、入居者同士のトラブルにならないよう間に入り、時には席替えし支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居や契約終了後は特にこちらからのフォローは行っていない。退居後他からの連絡・郵便物があれば連絡している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケース記録に入居者の発言や行動を記録し出来る限りの希望・意向に努めている。無理に強要したり強制はしていない。困難な方には行動・表情から読み取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご家族に生活歴・馴染みの暮らし方を記入してもらうか聞き取りをしている。入居者には日常生活の会話の中で聞きとり、ミーティング時に伝え話し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する状態を観察しケース記録に残している。個々の能力・状態に合わせて介助や日常生活で出来ることをやっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1回の計画見直しと1か月1回のユニット会議を開催しケアの内容を話し合っている。家族には会えた時や電話・ホーム便りにて現状を伝えケアプランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のバイタル測定・ケアの記録・業務日誌を記入し、必ず前日の記録・様子を見返している。申し送りノート(全体・ユニットごと)会議議事録の確認をし共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や認知症の変化に合わせケアをしている。病状に合わせ医療に確認しご家族にも報告をどうしていくかの確認をしている。その時々個々の状態に合わせケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買物に出かけたり、地域の行事に参加している。民生委員さんより芋堀のお誘いで地域の保育園児と一緒に参加。地域の医療(皮膚科・整形外科)には、状態に合わせて外来に受診している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回かかりつけ医の往診がある。24時間の連携体制があり、緊急時には指示を仰ぐときと状況により先生が往診に来てくれる。家族希望で他医療機関に家族同行で受診している方もいる。歯科医の往診もあり。口腔ケアを週1で受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1訪問看護により、健康チェックを行っている。心身状態に合わせ訪問看護に入っていただけの体制である。薬・軟膏類の把握と排便コントロールの相談等行いかかりつけ医・看護と連携をとっている。訪問看護より申し送りノートや記録用紙で情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、出来る限りお見舞いに行き状態の把握をしている。家族にも連絡を取り今後の事を相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医・看護・家族と相談しながら終末期に対応している。重度化や終末期に備えて入居時に同意を取っている。終末期には記録の書き方や内部研修を行って終末期に備えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルはあり、応急手当・初期対応の訓練は外部に行っている。平成30年9月にAEDを設置しました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。1回目は夜間想定での避難訓練、2回目は火災による避難訓練を実地しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室入室時には必ず本人に声をかけて入室している。一人ひとりに合わせた声かけや会話を行っている。職員の声掛けに関して気になるときはミーティングで職員に伝えている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方には何かする前には希望を聞いてから支援を行っている。自己決定できない方には普段の行動や表情で読み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	トイレは個々のペースで声掛けしている。本人が寝たいときは横になってもらいレクの参加も自由である。本人の希望に沿った支援に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は決められる方は自分で決めている。整容・洗顔・髭剃りは出来る方には自己でやってもらっている。2か月に1回訪問理美容ありカットするかどうか本人か家族の希望を聞いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は業者を利用し、昼の献立のみ職員が手作り、特別メニューがありイベント時に利用している。他イベント時には、年1回昼食バイキング、握りずしを楽しんでもらっている。時々昼食やおやつに外食へ行っている。食後の下膳は出来る方のみしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分は水分・食事摂取表をつけている。食事は1日のトータルを3段階で評価し摂取量を確認している。水分の少ない方には飲んでもらえるように声かけをしたり違う飲み物で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の歯科往診の受診あり。 毎食後口腔ケア実地。歯科衛生士より個々に合わせた指導がありそれに沿って声掛け・ケアを行っている。夜間に歯ブラシの消毒を毎日行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で個々の排泄の間隔を24時間チェックしている。チェック表を元に声掛け・誘導を行い把握している。起床時には牛乳や飲み物を毎日飲んでいる		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表でマイナス日数を記録し看護師と相談しながら排便コントロールを行っている。自立の方にはトイレ後排尿・排便の有無を聞いている。難しい方には、痕や臭いで判断している。起床時、飲み物やヨーグルトを提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本週2回午前中に行っている。午前中から声掛けし拒否があるときは夕方までに入浴して頂く。その日が無理なら翌日にまわしている。バスクリンを入れて楽しんでもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、居室で寝たい方には寝ていただき本人の休みたい時に休んでいただいている。自分の席で寝てしまうときは声掛けし居室かこのままフロアで過ごすか伺うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬チェック表で確認しながら飲み忘れの無いように気を付けている。内服薬については、職員には月2回の往診記録・各階の申し送りノートで変更について周知してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたむ・ダンスへしまうは日常行っています。出来る方は居室への掃除機がけ、洗濯機を回す、洗濯物干しを役割で行っている。声掛けで塗り絵や写経をしたり、週1回合同のカラオケに参加している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レク担当は各ユニット1名ずつ配置計画を立てている。計画は月1回程度、外出・外食の支援を行っている。全員で外出することはできませんが数人のグループに分かれて外出しています。普段は近所へ散歩、庭の野菜や花を取りに行ったり、買い物に同行しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金としてお小遣いを預かっていて必要な物をホームで職員が購入している。時々買物へ同行している。買い物レクでは好きなものを選んだり好きな物を食べたり本人に自由に選んでもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を出している。年賀状が届く方には返信している。ご家族や知人からかかってくる電話で相手から要望があれば電話に出て頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の壁には外出・イベントの写真を貼ってあり、玄関や共用空間は季節ごとにディスプレイをしている。季節毎に入居者と一緒に壁に飾る作品を制作している。冬は加湿器を置き、毎日の掃除で清潔に過ごしていただくように心掛けている。年間通して室温の変化がないようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で横になる方は独りになる時間が持てている。フロアでは、個々の性格や相性を考慮して席を決めている。ソファや日の当たる所で思い思い過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は安全に過ごせるように心がけ、身体の状態によってこちらで配置替えをすることもある。入居時に持参された物、家族・職員からの贈り物を飾るようにしている。職員と一緒に整理整頓することもある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分には歩行がスムーズに出来るように物を置かないようにしている。トイレ・浴室の扉には「男性用」「男女兼用」「来客用」「お風呂場」とわかりやすくしている。階段前には張り紙で危険を知らせ安全に工夫している		